



令和7年度 特別展「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」

かわはく No.83

CONTENTS

開催案内：特別展 昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～	2
開催案内：蔵出しコーナー 『江戸名所図会』にみる日本酒の容器	4
開催予告：秋期企画展 埼玉の食と菌類	4
開催報告：東京藝術大学学生による「河川・水系」作品展	5
開催報告：「かわはくの樹名板をつくろう！ 第75回全国植樹祭に出展しました	6
学芸員コラム：戦後80年 熊谷空襲 星川で何が起きたのか	7
イベント情報コーナー 8・9・10・11月	8



開催案内

特別展

昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～

開催期間：2025年7月12日(土)～9月15日(月・祝)

昆虫は陸上の生物の中で最も繁栄し、そして最も身近にいる存在です。生物多様性の保全や外来種問題などで話題の対象になる昆虫ですが、一般に昆虫について知る機会は限られています。

今回の特別展は、県立自然の博物館が収集した昆虫標本の中から約1,000種類、4,000点以上の標本を一挙に展示し、昆虫の形や種類の多様さを実感し、知ることのできる展示となっています。

併せて埼玉県の絶滅危惧種や外来種なども取り上げ、昆虫を通して埼玉県の自然への理解を深める展示となっています。豊富な昆虫標本と高精細な標本画像で紹介する本展示を、お楽しみください。



美しい昆虫標本（画像提供：県立自然の博物館）

■昆虫のかたちをみる

昆虫は長い年月の中で種分化を繰り返し、多様な“かたち”を獲得して、あらゆる環境に適応しました。昆虫のかたちと言えば、頭、胸、腹に分かれ、翅（はね）は4枚、脚は6本が原則です。しかし、実際の昆虫の体はそうのように単純なものではなく、それらの法則にのっとりつつも、各部位は昆虫ごとに様々です。また、近縁種で似通った姿かたちをしたものがいる一方で同種内でも地域や雌雄間などで色や模様、形が異なるものもあります。

第1章では、昆虫標本と昆虫のあらゆる部位の拡大写真で「昆虫の多様なかたち」を紹介します。

■昆虫の仲間分けをみる

地球上には現在、100万種ほどの昆虫の存在が明らかになっています。

第2章では埼玉県内で見られる人気のある昆虫から、マニアックな昆虫まで、グループごとに標本を展示して幅広く紹介します。

■埼玉県の昆虫をみる

第3章では、県内でみられる昆虫の中から「絶滅が危惧される昆虫」、「外来昆虫」、「埼玉の地にゆかりのある昆虫」をテーマに紹介します。

埼玉県には、明らかになっているだけで11,000種もの昆虫が見つかっており、新たに県内で見つかる昆虫の種数は年々増え続けています。県内でこれだけ多くの昆虫が見つかっているのは、埼玉の地が昆虫の多様性に満ちた地域であるとともに、多くの人が県内での昆虫類の調査、研究に携わってきた証でもあります。そういった調査・研究成果の一端がみえる展示となっています。



ムサシトゲセイボウ



クビアカツヤカミキリ
（画像提供2点とも：県立自然の博物館）

■昆虫を調べてみる

昆虫の種類を調べるには、採集して標本にすることが大切です。それは標本にすることで、だれでもいつでも、様々な視点で昆虫を観察することができるようになるからです。

第4章では、採集方法から標本のつくり方までを、学芸員が使用している捕虫網や針、ピンセツ



トなどの実際の道具とともに紹介します。また、標本にするのは成虫だけでなく、巣や繭も標本にします。昆虫を薬品に浸けた液浸標本など、さまざまな種類の標本も展示します。標本ラベルの重要性や、標本を集めて見比べることでわかることなども紹介します。

■世界の昆虫をみる

県内で昆虫を観察するだけでも、昆虫の多様さを実感することができますが、世界の昆虫に目を向けると、さらに昆虫の形や色、大きさなど昆虫の多様さを見ることができます。

第5章では、東南アジアや南米、国内では南西諸島に分布する昆虫を中心に、県内では見ることのできない昆虫を紹介します。

■関連イベント(予約の有無は裏表紙をご覧ください)

○講演会「埼玉県で昆虫を調べる」

8月2日(土)13:30～15:30

埼玉県内で昆虫の調査をするアマチュア研究者の方々に埼玉県で昆虫を調べる魅力、面白さについて話していただきます。中高生以上の方向きの内容です。

講演者：碓井 徹氏、新井浩二氏、岩田泰幸氏
(3名とも埼玉県絶滅危惧動物種調査団)

場 所：本館2F ふれあいホール

費 用：無料

○昆虫観察会②草地の昆虫編

9月15日(月・祝)10:00～12:00

荒川に隣接する川の博物館の駐車場とその付近の草地でバッタ類などの昆虫を採集し観察する子ども向けのイベントです。

講 師：半田宏伸氏(県立自然の博物館)

場 所：駐車場

費 用：100円

対 象：小学校3年生以上



トノサマバッタ

○昆虫標本をつくろう

8月20日(水)13:30～15:30

昆虫標本を実際に作成し、技術や標本に関する知識を深めます。

講 師：半田宏伸氏(県立自然の博物館)

場 所：本館2F 講座室

費 用：500円

対 象：小学校3年生以上

○自然の博物館学芸員による展示解説

8月31日(日)

①11:30～12:00 ②14:00～14:30

本展示を企画・監修した学芸員が展示の見どころ、ポイントを解説します。

講 師：半田宏伸氏(県立自然の博物館)

場 所：本館1F 第2展示室

費 用：無料

○サテライト展示

スロープ展「埼玉県のバッタ・コオロギと生息環境」

展示期間：令和7年6月27日(金)～9月28日(日)

埼玉県では1960年代の高度成長期以降の急速な都市化によって、バッタ、コオロギ、キリギリスたちは草地や雑木林などの生息地が狭められました。

本展示では、埼玉県内の市町村誌編纂のため調査・撮影されたスライド写真のライブラリーより、バブル期後の1990年代から2000年代初め頃のバッタやコオロギの生息環境と生態写真を紹介します。



スロープ展の展示風景

(学芸グループ 藤田宏之・三瓶ゆりか)



開催案内

蔵出しコーナー

『江戸名所図会』にみる日本酒の容器

開催期間：2025年6月27日(金)～2026年2月8日(日)

江戸時代に刊行された江戸のガイドブック『江戸名所図会』には、多様なお酒の入れ物が描き込まれています。今回の蔵出しコーナーでは、お酒の容器が描かれた名所とともに、当時のお酒事情や容器の変遷について解説します。紙面の都合上、ここでは「新川酒問屋」に描かれたこもだる菰樽を紹介し

ます。
新川は江戸に送られる物資の陸揚げのために開削された運河で、現在の東京都中央区新川一丁目の中心を流れていました。図会には、新川を上ってきた舟が蔵に横付けされ、お酒の樽が運び込まれる様子が描かれています。酒問屋（お酒の卸売業者）が軒を連ねていた当時の新川沿いの賑わいが生き生きと伝わってきます。

江戸時代、日本酒といえば関西から舟で運ばれてくる「下り酒」が人気でした。運搬中の酒樽の破損を防ぐため、マコモや稲わらなどを編んで作ったこも菰を巻いた菰樽が使われました。菰樽には、

お酒の銘柄名や銘柄を表すロゴマークが施されました。どのような銘柄のロゴが描かれているか、ぜひ図会をじっくりとご覧になってください。



『江戸名所図会』より
「新川酒問屋」(左：一部拡大)と菰樽(右)

昨年(2024)12月に日本酒や焼酎、泡盛などの日本の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。本展示を通じて日本のお酒(特に日本酒)と共に育まれた文化や当時の人々の営みに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(学芸グループ 板垣ひより)

開催予告

秋期企画展 埼玉の食と菌類

開催期間：2025年10月4日(土)～12月7日(日)

埼玉では、秩父山地の豊かな自然や川がつくった広大な農耕地、そして良質な水によって、伝統的な食文化が育まれてきました。本展示では、私たちの食文化を支える“菌類(真菌類)”に着目し、県内の「きのこ」や「地衣類」を食べる例や、味噌や醤油など「コウジカビ」や「酵母」を利用した発酵食品について紹介します。

そのほか、埼玉の気候や地形、水で醸造される日本酒やワイン、ビールなどの酒類の歴史、さらには、食と菌類に関する歴史・民俗的な資料も併せて展示します。

「なんとなく知ってそうで、よく知らない」…そんな菌類について知識を深めるとともに、埼玉に根付く美味しい“食”の魅力を再発見できる展示です。展示期間中にはさまざまなイベントも開催します、ぜひご参加ください。

(学芸グループ 板垣ひより)



ヤマドリタケモドキと天然ブリの秩父醤油ペペロンチーノ
(写真提供：斎藤幸子)



イワタケ(地衣類)の天ぷらとゴマ酢和え



開催報告

東京藝術大学学生による「河川・水系」作品展

開催期間：2025年5月24日(土)～6月22日(日)

今年度も東京藝術大学（以下、藝大）美術学部デザイン科の1年生（現・2年生）の学生の皆さんによる作品展を開催しました。平成29年（2017）にスタートした本企画も、途中コロナ禍の中断期間を挟みながら今回で6度目の開催となりました。

第2展示室およびリバーホールに、藝大の皆さんが河川について調べ、その調査に基づいて制作した全35作品を展示させていただきました。

インバウンドで多くの外国人観光客が訪日している現状を踏まえたともいえる、隅田川の橋をコンセプトとしたホテルプランの提案をはじめ、アニメーション作品、絵本作品、ドレスにアクセサリなど、今年度も展示室内が制作者の個性と創造性にあふれた作品で埋め尽くされました。

なかには未確認生物のぬいぐるみや、河童のための胡瓜をメインとした食堂のメニュー、架空の民族、もし未来の人たちが間違っ現代のモノを再現したらどうなるか…などなど、特撮好きの私が思わずほくそ笑んでしまうような作品もあり、まさに多種多様、過去一バラエティに富む作品展だったとしみじみ感じています。

当館で作品展を例年開催させていただいているのは、藝大の実技課題「調べる」の指導補助を当館学芸員が担当している、というのが一番の理由です。学生さんは作品の制作だけでなく、自分の手で作品の設営・撤収まで行っています。

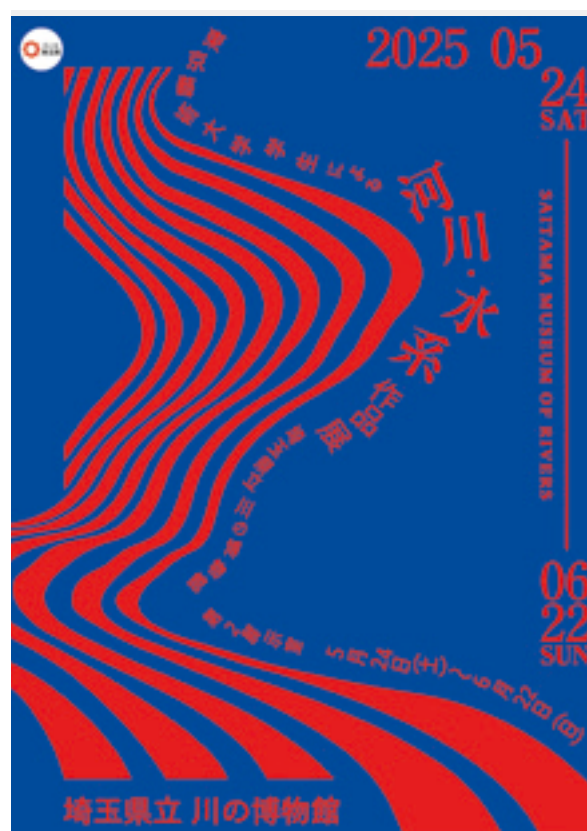
他にも広報媒体（ポスター・チラシ）のデザインも学生の皆さんが担当しています。今年のメインビジュアルは中村香乃さんが担当し、その他の展示に向けての一連の作業は、栗原 ミレナ 光吾子さん、深谷玄太さん、福島奈緒子さんが分担して行ってくれました。

また、一部作品（スタンプ作品など）は、展示最終日である6月22日に実演イベントを制作者に行っていただき、来館者の方に自分の作品について解説しながら実演していただきました。

当館は開館以来、博学連携に力を入れて取り組んでまいりました。本作品展もインターンシップとまではいきませんが、大学生が現場で学ぶ場に

なっているといえます。今回の展示から、今後の創作活動につながるヒントや作品を展示する際のテクニックなどを得てもらえれば、担当者として大変うれしく感じます。

藝大生の皆さん、今年度も大変お世話になりました。またどこかで皆さんの作品に出会えることを楽しみにしています。



今年度のメインビジュアル（チラシ表面）



今年度の展示室の様子

（学芸グループ 羽田武朗）



開催報告

かわはくの樹名板をつくろう!

第75回全国植樹祭応援事業のひとつとしてイベント「かわはくの樹名板をつくろう!」を4月27日(日)に開催しました。

特別に作成した板に、木の名前と装飾を施して、木の名札「樹名板」を作成しました。NPO法人リトカルを講師に迎え、午前の回ではクイズや園内に生えている木を紹介するミニツアーを交えながら、午後の回では各自で樹木を観察したり、講師に話を聞いたりして、樹木について学びながら、樹名板づくりを行いました。

作成した樹名板50枚は、後日ニスを塗って仕上げ、園内の各樹木に取り付けました。個性あふれる樹名板は、それだけでも目をひきます。また、スマートフォンを使って樹名板の二次元コードを読み込むと、木そのものやその木に関連する生きものたちのことを学ぶことができます。ご来館の際には、設置された樹名板を通じて樹木に親しんでいただければと思います。



樹名板づくりの様子



木に取り付けた樹名板

(学芸グループ 三瓶ゆりか)

第75回全国植樹祭に出展しました

2025年5月25日(日)に、第75回全国植樹祭が埼玉県秩父ミュージアムパークで開催され、当館は、埼玉県立自然の博物館、埼玉県文化財・博物館課とともに「おもてなし広場」に出展しました。

おもてなし広場は、植樹祭に参加される招待客をもてなすことを目的に、特産品の販売、埼玉県の森林・林業や観光に関する展示などを行い、埼玉県の魅力を発信する場です。さまざまな団体が出展し、会場は活気にあふれていました。

私たちは、前号で紹介した植樹祭応援事業のパネル展「川でつながる森と人」、鉄砲堰、川の博物館の概要を、パネルや模型、土壌標本で紹介するとともに、川の博物館のこれまでの展示で作成した展示解説書、手ぬぐいやぬいぐるみなどのグッズを販売しました。

どのようなお客様が何人ほどいらっしゃるのか予想が難しかったのですが、心配した雨も朝のう

ちに上がり、予想以上に大勢のお客様が来られました。ブースを訪れた方には解説に熱心に耳を傾ける方も多く、かわはくをはじめ県内各所の博物館を知っていただくきっかけになったのなら幸いです。



ブースの様子

(学芸グループ 森圭子・三瓶ゆりか)



戦後80年 熊谷空襲 星川で何が起きたのか

今年は戦後80年です。1945年8月15日未明に熊谷市街地を焼き尽くした空襲は、死者266名という大きな被害をもたらしました。埼玉県内では、熊谷市が唯一の戦災指定都市となっています。

市街地中心地を流れる星川周辺では、熊谷空襲による被害が特に大きく、その悲惨さが語り継がれています。市内の学校等では、戦争体験者を招いた平和学習がおこなわれてきましたが、体験者の高齢化により語り継ぎが難しくなってきました。

さて、熊谷市内では、区切りの年ごとに市民らによる証言集が出されてきました。戦後30年には被災者171名の証言を集めた熊谷市文化連合による『市民のつづる熊谷戦災の記録』が、戦後55年を控えた1999年には、星川保勝会による『創立50年のあゆみと空襲体験記』が発行されています。

星川上流にあった旧墨江町では、亡くなった46名の氏名を『空襲体験記』に地図とともにまとめています。墨江町で被害者が多かったのは、木造家屋が密集したことにより火の回りが早かったこと、南北に抜ける広い道がなく星川に逃げ込めなかったことなどが原因とされています。

空襲による被害とは、どのようなものか、その証言を分析することで理解を深めることができるはずです。『熊谷戦災の記録』から分かる範囲で、墨江町での被害を紹介してみましょう。空襲による死因は多岐にわたることが次の証言から分かります。

「焼夷弾だけならあのような犠牲者も出なかったと思うが、密集した家屋の焼失物が頭上や体に当たり、ついに星川に逃げ込んだ結果全員死体となったのである。中には無我夢中で星川から背負いだそうとして二人共重なり合って死んでいる人もあり、星川の中の焼失物を手で取除けばその下から、死体がふんわり浮かび出る惨酷さはこの世の中に神も仏も無く、全くの生地獄であった」

(神山鉦二郎)

住民が逃げ込んだ川の中では、どのような光景が展開していたのでしょうか。

「これ以上、家の中にいると危険というときに、わたしと兄はそれぞれ自分の敷蒲団を頭からかぶるようにのせ、川に入ろうとしました。そのとき、母が風呂の水を蒲団の上からかけてくれました。

(略) 川をいっぱい埋めた一円の炎が、水面を這うようにこちらに向かって襲ってくるのです。(略) 川の中は次第に呼吸が苦しくなってきました。(略) のどはからからに乾いてしまいました。わたしは川の水を手で掬って飲みました。近所のSさんは上半身裸で、清の家からの下水の管に頭を入れたり出したりうなり声をあげていました」

(内田三津男)

この証言からは、川面にも火炎が襲ってきたこと、水路に沿って煙が充満し、呼吸困難になった様子が分かります。このSさんは、関根藤太郎氏のことだと思われますが、その後の関根氏について、一緒に川に逃げた人の証言が残っています。

「なお負傷しながらも、あの夜は元気だった関根洗濯屋の主人も、10月7日についに亡くなりお内儀さんも頭部の火傷がひどくて、今の熊谷市立の診療所入院して、手当てを受けておりましたが、日増しに衰弱し、ついに9月5日に死去し、長女の文子さんも小児と共に、当夜川の中で、亡くなり一家4人の犠牲となってしまいました」

(尾崎けい)

熊谷空襲は、数字の大きさからその被害の大きさが偲ばれますが、被害者のお一人ごとに個別の困難がありました。証言は、そのディテールを教えてください。先人たちが編んできた証言集は、体験者がいなくなった後も戦争の愚かさ、悲惨さを伝えるための縁になってくれるでしょう。



『創立50年のあゆみと空襲体験記』から転載

(学芸グループ 矢嶋正幸)

8月

特別展
「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」

1/金 かわはく開館記念イベント

あそぼう・まなぼう「紙飛行機を飛ばそう」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

内容：展望台から紙飛行機を飛ばします。

2/土 特別展関連 講演会「埼玉県で昆虫を調べる」

時間：13:30～15:30

定員：50名 ☎

内容：県内で活躍する昆虫ナチュラリストによる講演会です。

9/土 体験教室「ミジンコを探そう」

時間：13:30～15:30

費用：100円

定員：12名 ☎

内容：田んぼの小さな生きものを観察します。

10/日 研究室「漁具のいろいろ」

時間：13:30～15:30

内容：魚の習性を利用してつくられた漁具を紹介します。

20/水 特別展関連「昆虫標本をつくろう」

時間：13:30～15:30

費用：500円

定員：20名 ☎

内容：標本づくりを通じて標本の役割を学びます。

31/日 特別展関連「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～

内容：学芸員が展示を解説します。

9月

～9/15/月祝

特別展
「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」

6/土

体験教室「伝統漁法体験」

時間：9:00～17:00

費用：1,000円（保険料）

定員：5名 ☎

内容：瀬張り網漁の技能伝承を目指す、18歳以上を対象としたイベントです。

14/日 研究室「“流れる水のはたらき”の実験を通して水害について考える」

時間：13:30～15:30

内容：小学校5年生の理科の単元「流れる水のはたらき」の実験を砂山を使って実演します。

15/月祝 特別展関連 昆虫観察会「草地の昆虫編」

時間：10:00～12:00

費用：100円

定員：30名 ☎

内容：荒川の河原に隣接する駐車場でバッタ類を観察します。

28/日 あそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」

時間：13:30～15:30

内容：お月見にまつわるクイズラリーで十五夜の準備をします。

10月

10/4/土～ 秋期企画展「埼玉の食と菌類」

4/土 体験教室「ジュズダマであそぼう」

時間：①10:00～11:30 ②13:30～15:00

費用：200円

定員：各回15名 ☎

内容：ジュズダマを観察し、実でプレスレットを作ります。

5/日 企画展関連 大人のための講座「地形と水とお酒Ⅲ」

時間：10:00～15:00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：深谷の歴史や地形、酒づくりの関係を学ぶウォーキングイベント。

13/月・祝 企画展関連「ミニきのこ展」

時間：①10:30～11:30 ②13:30～14:30

内容：かわはく周辺で見られるきのこを紹介します。

18・19・25・26/土日 あそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」

時間：10:00～16:00

内容：イベントを館内各所で行います。仮装して来館された方にはプレゼントがあります。

11月

秋期企画展「埼玉の食と菌類」

1/土 荒川ゼミナールⅠ「あの被災地は今…～令和元年東日本台風の被災地を再訪する②～」

時間：10:00～16:00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：令和元年東日本台風の被災地を再訪するウォーキングイベント。

9/日 企画展関連「展示解説」

時間：①10:00～ ②13:30～

内容：学芸員が展示を解説します。

研究室「河原で植物ウォッチング」

時間：①10:30～11:00 ②13:30～14:00

費用：100円（保険料）

定員：15名 ☎

内容：かわせみ河原の植物を観察します。

14/金 かわはく秋まつり

時間：10:00～16:00

内容：埼玉県民の日を記念して、様々なイベントを開催します。

あそぼう・まなぼう「木の実あそび」

時間：①10:00～11:30 ②13:00～15:00

内容：木の実を使ってヤジロベエやコマを作ります。

16/日 企画展関連 大人のための講座「醤油づくりを学ぶウォーキング」

時間：10:00～15:00（予定）

費用：200円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：入間川と越辺川の合流地点の地形を学びながら金箔醤油パークを訪ねます。

22/土 体験教室「草木で染めよう」

時間：13:30～15:30

費用：500円

定員：15名 ☎

内容：園内や河原の植物を使って布を染色します。

24/月・振休 かわはく実り祭り

時間：11:00～14:00

内容：とれたて野菜の即売会を開催します。野菜と土について学べる展示も行います。

ホームページでも紹介しています！

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館



〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739（学芸グループ） FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。
<https://www.river-museum.jp>または「かわはく」で検索
X（旧Twitter）でもイベントの配信を行っています。
かわはく HP トップページ二次元コードはこちら ➡

2025年7月31日発行

